

X バー規約と中国語多重連体修飾語の語順

Xbar scheme and the word order of multiple adnominal modifiers in Chinese

山口 直人

YAMAGUCHI Naoto

【摘要】X 标杆模式与汉语多项定语的词序

汉语の所謂“多项定语的词序问题”已经有不少研究成果。其中何 2011 根据生成语法“X 标杆模式”的理论框架很明确地解释了三种不同定语（数量词、“的”字句、性质形容词）的词序问题。本稿在何 2011 的基础上，假设了“三层的 X 标杆结构”，来补充解释何 2011 的不足，结果对汉语多项定语的词序问题得到了比较全面的说明。

Key Words : X バー規約 樹形図 多項定語

0. はじめに

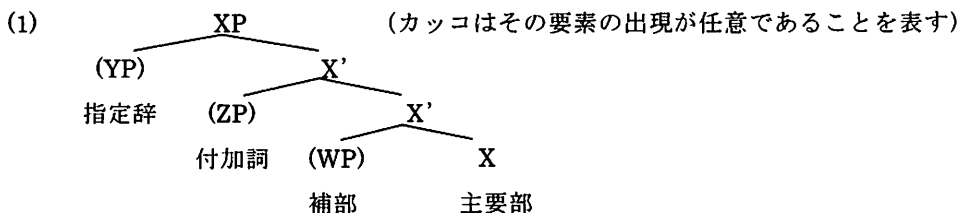
本稿は中国語において、複数の連体修飾語が 1 つの中心語名詞を修飾する際に、それらの修飾語がどのような順序で並ぶか？という問題について考察する。これはいわゆる「多項定語の語順」¹⁾として知られており、これに関する研究として代表的なものに楊 2009、刘等 2019 がある。

本稿は生成文法の観点から分析を行う。生成文法においては、文生成の基本的な枠組みは「X バー規約 (Xbar scheme)」がその任を担う。X バー規約は句 (phrase) の生成が内心構造をなすことを定めたものであるが、この X バー規約にもとづく中国語多項定語の語順に関する研究は、何元建 2011 がその嚆矢と思われる。何 2011 はその第 2 章 2.1.1 節において、中国語多項定語のうち、「数量詞」「“的”字句」「性質形容詞」の 3 つの語順について、X バー規約にもとづいて説明力の高い分析を行っている。何 2011 は上記 3 つの定語の語順が、なぜそのようなものかということについて、樹形図を用いて明示的に示すことに成功しており、形式文法としての生成文法の面目躍如たるものがある。しかし、これまで研究されているところでは、中国語の多項定語は最大 7 つ程度（研究者によって若干差がある）の定語が中心語名詞の前に連続する可能性があり、何 2011 が考察した 3 つの定語だけでは十分な分析とは言えない。よって本稿の目的は、何 2011 の分析に適切な拡張を行うことで、中国語多項定語の語順について、より全面的な説明を行うことにある。以下、順を追って見てゆく。

1. 生成文法の観点から見た中国語多項定語の語順に関する分析

1. 1 Xバー規約

Xバー規約の考え方は「主要部 (head)」を構造のカナメとして、それがいくつかの「項 (argument)」や「付加詞 (adjunct)」を伴いながら、上に構造の枝を伸ばして行き、最終的にその主要部の句 (これを「最大投射 (maximal projection)」という) を形成するというものである。代表的な Xバー規約の樹形図は以下のようなものである²⁾。

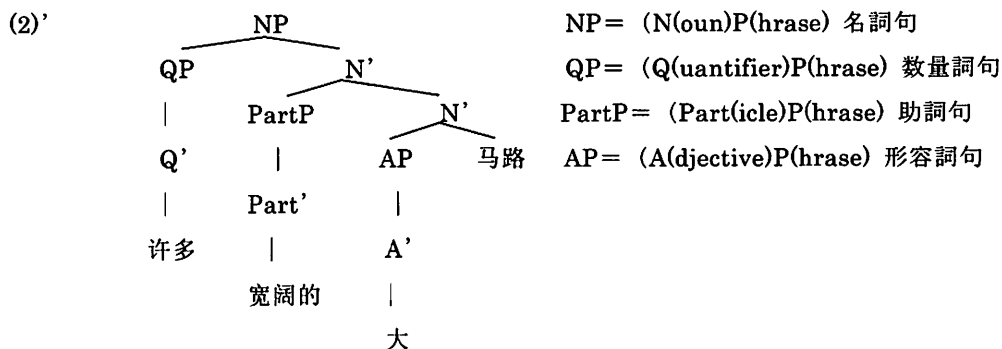


Xバー規約が描く句の構造は、主要部 X が「補部」や「付加詞」や「指定辞」を伴いながら、中間投射の X' (Xバー) のレベルを経て、最終的に最大投射である XP (XP(hrase) = X 句) として完成する過程としてある。何 2011 が扱っているのは前述したとおり、「数量詞」「“的”字句」「性質形容詞」という 3 つの異なる修飾語が、中心語名詞の前にこの順番で並んだ構造である。以下、具体例を見てみる。

1. 2 何 2011 の分析

何 2011 の分析では、中心語名詞の前に 3 つの定語が並んだ例が挙げられている。³⁾

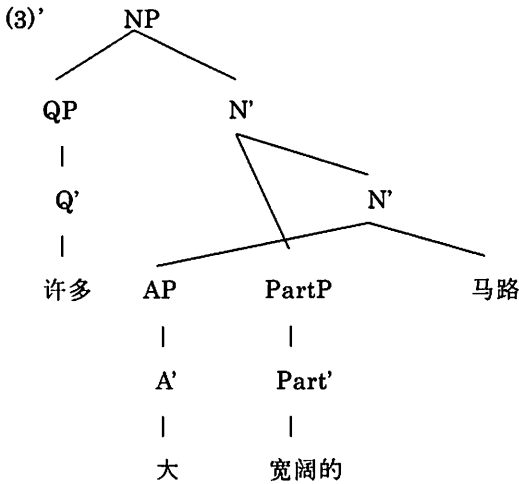
(2) 许多 宽阔的 大 马路。 <たくさんの 広い 大 通り> (何 2011,2-(65)=何 2011 第 2 章の例文(65)の意。以下同様)



例文(2)は「数量詞」「“的”字句」「性質形容詞」がこの順番で並んでいるが、重要なのはこの 3 者の階層的な高さの違いである。(2)の樹形図である(2)' を(1)と対応させてみると分かる通り、数量詞は「指定辞」に、“的”字句は「付加詞」に、性質形容詞は「補部」の位置にそれぞれ現れている。この 3 者が樹形図の階層的に異なる位置に現れると考えたところに何 2011 の優れた点がある。つまり、この 3 つの修飾語は樹形図において占める位置が決まっており、もしその語順が(2)の規範的な語順に違反したものとなった場合には、それは樹形図に「枝の交差」という違反を生じることになる。そしてこの考え方は一歩進めれば、枝の交差が多いほど、その文の適格性が下がることを予測する(詳細は何 2011 第

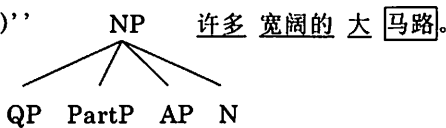
2章 2.1.1 節参照)。4)

(3) *许多 大 宽阔的 马路。 <たくさんの 大きな 広い 通り> (何 2011,2-(66))

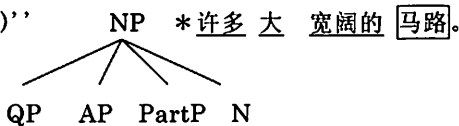


正しい語順である(2)を(3)と比べた場合、(3)の不適合性は、樹形図(3)'に見るように枝の交差が生じることにその原因を求めることができる。もしこの3つの修飾語が(2)のような階層構造を持たず、平面的に並んでいるとすれば、語順が変わっても枝の交差は生じない。すると、語順が変わると適合性が落ちるという事実を説明することができない。以下、範疇記号だけを使って簡単に示してみる。

(4)a=(2)''



(4)b=(3)''



このように、何 2011 は「数量詞」「“的”字句」「性質形容詞」の3者に見られる語順の制約を、X ̄-規約にもとづいて明示的に説明することに成功している。ただ、冒頭で指摘したように、中国語の多項定語の数は7つほどあることが報告されており、より全面的な説明が求められる。以下、多項定語の語順の実際を確認するために、先行研究を見てみる。

2. 多項定語の数と語順に関する先行研究

中国語多項定語の数と語順に関する研究の代表として、楊 2009 と刘等 2019 を取り上げる。

2. 1 楊德峰 2009 《对外汉语教学核心语法》

楊 2009 は 114 頁で以下のように述べ、7つの多項定語の順番を定めている。

「累加関係（注1参照 筆者注）の多項定語の順番は実に複雑であるが、一定の規則が存在する。その規則はおおよそ以下のとおりである。

①所属関係あるいは代名詞、②時間あるいは場所、③指示代名詞、④数量詞、⑤主述句/動詞句/前置詞句、⑥形容詞(句)、⑦“的”を伴わない形容詞や名詞」（引用は以上）

ただし、①～⑦の7つすべてが現れるのはかなり特殊な例であり、実際は①～⑦のうちの一つが選ばれて並べられる。以下、数例を挙げるが、引用した例文は、本稿の順番に従って例文番号を変えている。

(5) 1月6号是 去年 最冷的 一天。(1月6日は去年一番寒い日だった)

② ⑥

(6) 那 一双 大一点儿的 牛皮 皮鞋 多少钱?

③ ④ ⑥ ⑦

〈あの一足の少し大きめの牛皮の革靴はいくらですか?〉⁶⁾

例文(6)の⑦“牛皮”は楊 2009 の言う「名詞」だが、これは主要部名詞“皮鞋”が前に名詞を取って複合名詞“牛皮皮鞋”を作り、それが中心語名詞になっていると考えるべきである。よって、こうした「名詞」は多項定語として取り扱うのは不適切であると考え、本稿が検討する多項定語の考察の対象外とする。

2. 2 刘月华 潘文娣 故轡 2019 《实用现代汉语语法·第三版》

刘等 2019 は 487～489 頁で、多項定語の語順について以下のようにまとめている。

「①所属性の名詞、代名詞、②場所と時間（両方現れる場合はどちらが先でもよい。場所詞が①と同時に現れる場合には、①の前におかれることがある）、③数量詞（描写性の定語はこの後ろに現れる）、④主述句/動詞句/前置詞句、⑤数量詞（制限性の定語はこの前に現れる）、⑥形容詞(句)およびその他の描写性の語句、⑦“的”を用いない形容詞や描写性名詞⁶⁾」（引用は以上）

楊 2009、刘等 2019 とともに多項定語の数は最大7つとしているが、その内容は両者で微妙に異なる。刘等 2019 で数量詞が③と⑤の両方に現れているのは、④が数量詞の前後に現れる可能性があるからである。この事について、刘等 2019 は 491 頁で累加関係の定語のうち、制限的なものと描写的なものが、数量詞句を中心に前後に現れることを指摘している。⁷⁾ なお、この④というのはいわゆる“的”字句のことである。

(7) 制限的な“的”字句 + 数量詞句 + 描写的な“的”字句

よって、④が数量詞の前に来れば「制限的な解釈」、後に来れば「描写的な解釈」となる。次節では楊 2009 と刘等 2019 の分析をまとめた上で、続く第3章で全面的な多項定語の語順について考えてみたい。

2. 3 本稿の考える多項定語の語順

楊 2009 と刘等 2019 の分析を本稿では以下のようにまとめる。

①所属性の名詞、代名詞

②場所詞あるいは時間詞

→ (この位置なら制限的解釈)

③指示代名詞

④数量詞句

⑤主述句、動詞句、前置詞句としての“的”字句 (この位置なら描写的解釈)

⑥“的”を用いた形容詞 (=形容詞句)

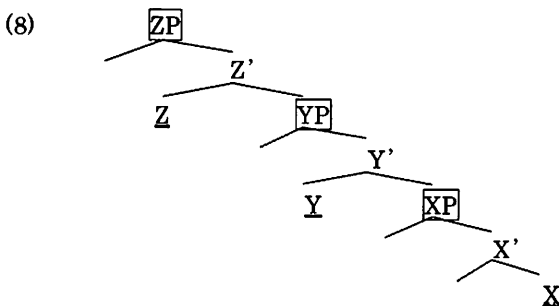
⑦“的”を用いない形容詞 (=性質形容詞)

描写的な解釈を持つ主述句、動詞句、前置詞句は⑤の位置に置いておくが、これが③の前に置かれれば制限的な解釈を持つことは前述したとおりである。ここで改めて何 2011 が扱った 3 つの定語 (「数量詞」「的”字句」「性質形容詞」) を見てみると、それは上の④⑥⑦であることが分かる。何 2011 がなぜ⑤に相当する定語を扱わなかったのかについては、ここでは深く掘り下げることはしない。

以下、何 2011 の X バー規約の考え方を拡張する形で、上でまとめた①～⑦の多項定語の語順について考察を続ける。

3. X バー規約の拡張

X バー規約が生成文法の進歩発展の中で、現在の極小理論に至るまで破棄されることなく保持されてきた理由の一つは、その再帰性にある。つまり、以下の(8)に示すように、X を主要部として上に構造の枝を伸ばし、X' という中間段階を経て、最終的には最大投射の XP (=X 句) として完成するわけである。ところがその XP が他の主要部 (たとえば Y) の補部となることで、今度はその Y の投射がさらに上に向かって展開されてゆく。そしてこの Y が最大投射 YP として完成した後も、今度はその YP が他の主要部 Z の補部となり、Z の投射がさらに上に向かって展開してゆく。こうして X バー規約を再帰的に適用することで、複雑な構造を生成することが可能になる。なお、(8)においては「付加詞」が現れる余地が無いが、バーレベル 1 の「中間投射」 (= (8) の X'、Y'、Z') は繰り返し現れることができるので、必要とあれば「中間投射」を上積み上げることで、付加詞を繰り返し生み出して使うことができる。図(1)を参照のこと。



このように、X バー規約を繰り返し上に向かって拡張することで、多数の連体修飾語を取る名詞句を生成することができる。以下、この考え方に沿って中国語多項定語の全面的

な語順について説明を試みる。第2章で見たとおり、中国語の多項定語は最大7つほどあることが報告されている。本稿では2.3節で①～⑦の定語を定めた。1つの中心語に7つもの定語が連続した表現はあまり自然なものではないが、考察に必要なので7つすべてが現れた文を作例して考える。

(9) 我 昨天 在前门买的 那 一把 明代制造的 锋利的 古 刀。

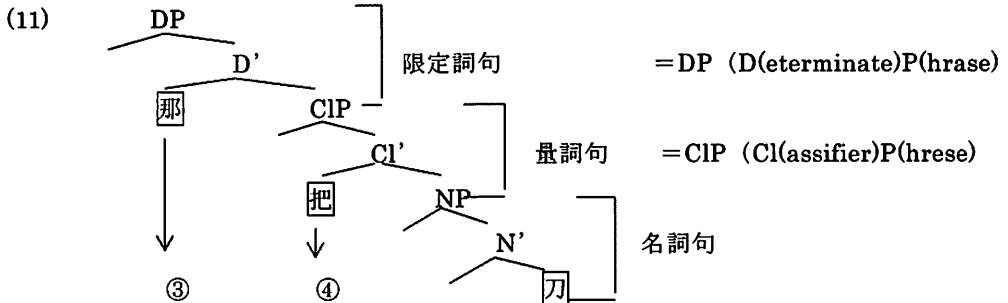
① ② ⑤(制限的) ③ ④ ⑤(描写的) ⑥ ⑦

<私が昨日前門で買ったその一振りの明代に作られた切れ味のよい古刀>

(9)のような文を日常的に耳にすることはほとんどありえない。しかし実は、(9)は結局のところは3つの主要部から構成されているに過ぎない。それは(10)である。

(10) 那把刀<その刀>

(10)の樹形図を単純化して描くと(11)になる。□で囲んだ語はその句の主要部である。

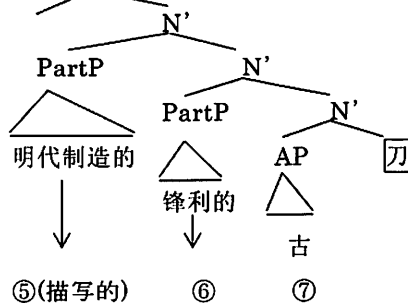


(11)は名詞の“刀”を主要部として出発した名詞句構造 (NP) が、上に向かってその構造を量詞句 (CIP) から限定詞句 (DP) へと拡張し、最終的に「3階建ての」Xバー構造を形成するに至る過程を表している。以下、それぞれの階層ごとに見てゆく。

3.1 名詞句の拡張

(11)の名詞句の階層の中間投射のN'をさらに2つ上に積み上げ、その付加詞位置と補部位置に2.3節で定めた①～⑦の定語のうち、⑤「描写的」な“的”字句の“明代制造的”、⑥“的”を用いた形容詞句の“锋利的”、⑦“的”を用いない性質形容詞の“古”をそれぞれ挿入すると(12)が得られる。⁸⁾

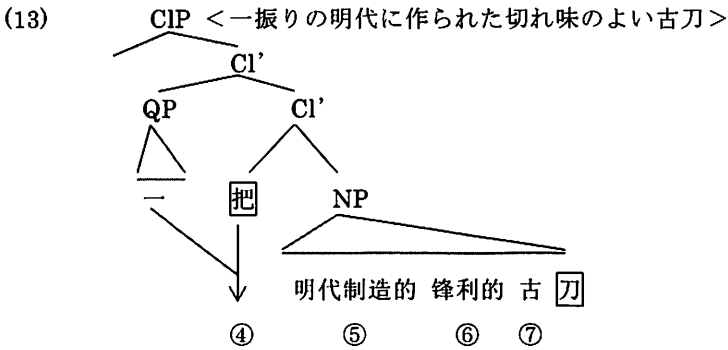
(12) NP <明代に作られた切れ味のよい古刀>



3.2 名詞句から量詞句への拡張

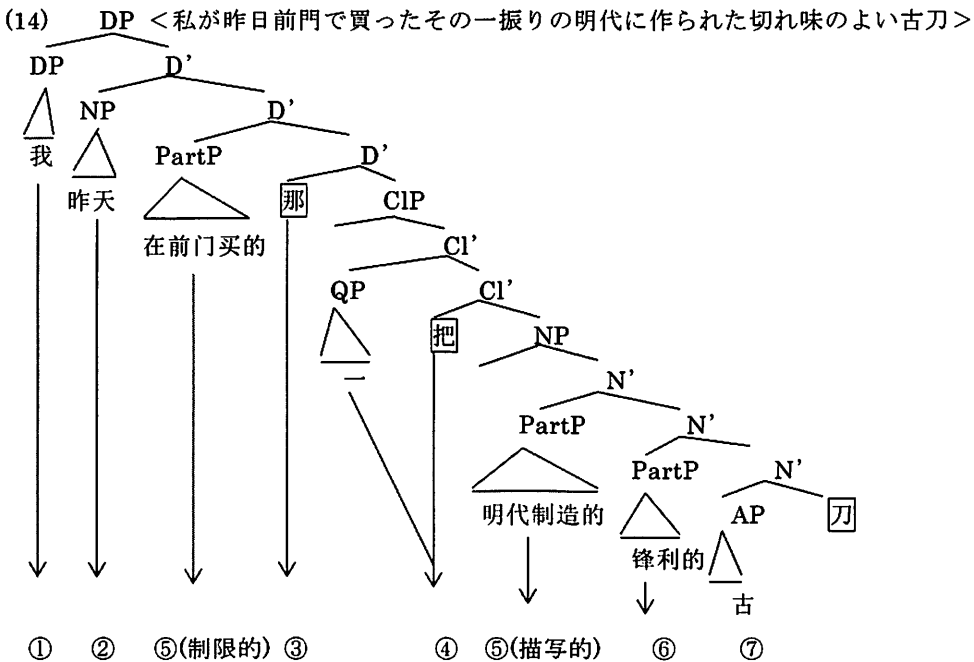
この(12)の名詞句 (NP) が量詞“把”の補部となることで、名詞句から量詞句 (CIP)

への拡張が起こり、「2階建て」のXバー構造となる。中間投射のCI'を1つ上に積み上げ、その付加詞位置に数詞(Q(uantifier))の“一”を挿入することで(13)が得られる。



3. 3 量詞句から限定詞句への拡張

この(13)の量詞句(CIP)が限定詞“那”の補部となることで、量詞句から限定詞句(DP)への拡張が起こり、「3階建て」のXバー構造が完成する。中間投射のD'を2つ上に積み上げ、その付加詞位置に②時間詞の“昨天”と⑤「制限的」な“的”字句の“在前门买的”を挿入し、指定辞位置に①所有を現す代名詞の“我”を挿入することで、例文(9)に相当する構造(14)が完成する。



3. 4 Xバー構造における位置が意味するもの
 ここまでの議論をまとめると以下ようになる。

(15)

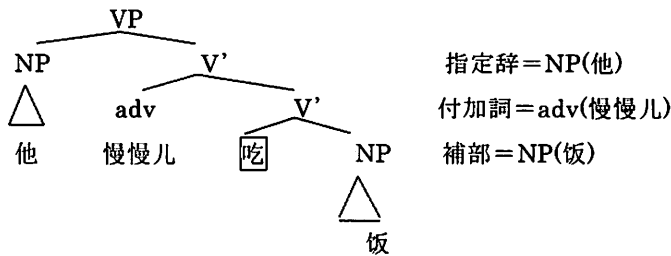
中国語多項定語の構造は、図(11)に示す「3階建て」のXバー構造を持ち、必要に応じてその左枝の空いた位置に、適切な定語を挿入することによって作られる。

ここで問題になるのが、(15)で述べた「適切な定語」がいかんにして選ばれるのか？ということである。これはつまり、Xバー構造の指定辞、付加詞、補部といった位置には、いかなる根拠に基づいて定語が挿入されるのか？ということである。これについて本稿では自明のこととして扱ってきたが、明確な説明が求められるであろう。

この事を説明するには、「文」を例にすると分かりやすい。生成文法では文の基本構造は動詞の最大投射である動詞句 (VP) と考える。⁹⁾

(16) 他慢慢儿吃饭。 <彼はゆっくりご飯を食べる>

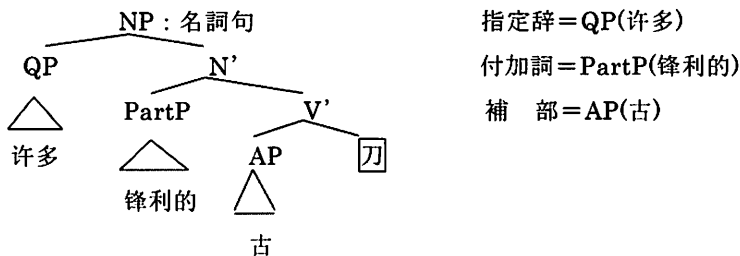
(16)'



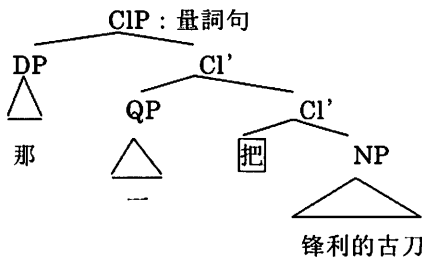
(16)' において、主要部動詞“吃”の補部位置に目的語“飯”が来るのはある意味当然である。補部には主要部と最も結びつきの強い要素が来るわけであるが、動詞と目的語の結びつきの強さは世界の言語において、両者が隣接するパターンが一般的であることから裏付けられる。一方の付加詞は選択的な要素であり、(16)' で“慢慢儿”が付加詞位置に来るのも納得できる。副詞的修飾語 (adv(erbial)) は文の成立に必須の要素ではない。最後の指定辞は動詞句が表す事柄を方向付ける人や事物が来るべき位置である。とすれば、主語の“他”が指定辞に来るのも当然である。

このように、Xバー構造において指定辞、付加詞、補部を占める要素は、そこに位置するに当たっての必然性を持っているのである。こうした観点から名詞句 (NP)、量詞句 (CIP)、限定詞句 (DP) それぞれの構造における指定辞、付加詞、補部を見てみると、本稿が2. 3節で定めた①~⑦の定語がそれらの位置に現れることには必然性があることが分かる。以下、少し単純化して図示する：

(17)

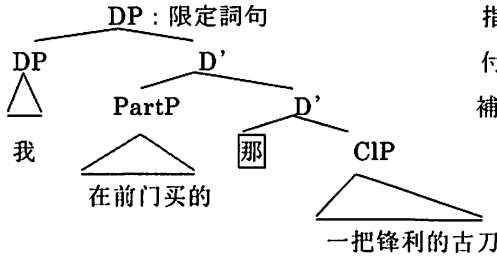


(18)



指定辞=DP(那)
 付加詞=QP(一)
 補部=NP(锋利的古刀)

(19)



指定辞=DP(我)
 付加詞=PartP(在前门买的)
 補部=CIP(一把锋利的古刀)

こうして見ると、いずれの句の構造においても、主要部と隣接した位置である補部に来る定語は主要部と極めて密接な関係を持った成分であり、付加詞に来る定語は任意の成分であり、指定辞に来る定語はその句の数や所属といった、その句の性格を指定する成分であることが分かる。このようにして、(17)名詞句、(18)量詞句、(19)限定詞句それぞれの構造において、その指定辞、付加詞、補部位置にふさわしい「適切な定語」を取りつつ、それが「3階建て」のXバー構造を作り上げることによって、最終的には最大8個もの定語がずらりと並んだ樹形図(14)が完成することになるのである。

4. おわりに

本稿では多項定語の語順の問題について、何 2011 の X バー規約にもとづく考え方を拡張することで、全面的な説明を試みた。この考え方は、類似の言語現象である多項状語の語順の問題についても応用できる可能性が高く、今後の研究が待たれる。

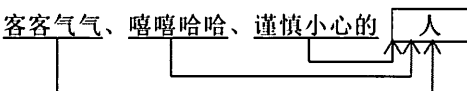
注

1 多項定語には「並列関係 (“并列关系”）」と「累加関係 (“递加关系”）」の2つがあるが、本稿では「累加関係」だけを扱う。

並列関係の例：刘等 2019 482 頁

人们一下子都变成客客气气、嘻嘻哈哈、谨慎小心的 人了。

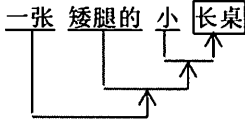
<みんなはたちどころにお互いに遠慮し合い、まともに向かい合おうとせず、慎重で用心深い 人間 変わってしまった>



累加関係の例：刘等 2019 486 頁（ただし、本稿では下の“长桌”は一語の複合名詞と考える）

葫芦架下 摆着 一张 矮腿的 小 长桌。

くひょうたん棚の下には 一台の 足の短い 小さな 長テーブルが並べてある



- 2 中国語の修飾語は被修飾語（＝中心語）の前に置かれるので(1)のような形になる。動詞の補部（＝目的語）は主要部である動詞の後ろに置かれる。
- 3 本稿で用いる範疇記号は以下の通りである。名詞句（N(oun)P(hrase)＝NP）、数量詞句（Q(uantifier)P(hrase)＝QP）、助詞句（Part(icle)P(hrase)＝PartP）、形容詞句（A(djective)P(hrase)＝AP）、また、3. 2 節以降で使われるものに量詞句（Cl(assifier)P(hrase)＝CIP）、限定詞句（D(eterminate)P(hrase)＝DP）がある。
- 4 (3)の日訳は非文とは言えない。日本語ではこのような多重連体修飾語の語順の並べ替えは中国語と違って許容されるようである。
- 5 例文(6)の“一双”（一足の）のような数量詞を直接翻訳すると日本語として不自然であるが、ここでは多項定語の種類と語順を確認したいので、あえて直訳しておく。
- 6 この「描写性的名詞」というのは前節で見た杨 2009 の⑦における「名詞」と同じであるが、前述の理由で本稿ではこれを除外する。
- 7 この指摘は、早くは Chao1968 286 頁 5.3.6.2 節に見られる。
- 8 (12)では、詳しい分析が必要ではない助詞句(PartP)と形容詞句(AP)については、生成文法の慣例に従い△を用いて省略して描いている。以下、同様。
- 9 実際には VP は屈折辞 I(nflection)の補部となり、この I が屈折辞句 (IP) に展開する過程で、主語の NP は IP の指定辞に繰り上がるが（いわゆる「動詞句内主語仮説」）、ここでの議論は(16)' の図で差し支えない。なお、名詞句と異なり、動詞句では補部が主要部の後ろに来ることについては注 2 参照。

主要参考文献

Chao Yuanren (赵元任) 1968 *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.

何元建 2011 《现代汉语生成语法》 北京大学出版社

何元建・山口直人 2018 『現代中国語生成文法』好文出版（邦訳版）

刘月华 潘文娉 故群 等 2019 《实用现代汉语语法 第三版》（1983 年の初版に比べると、該当箇所の記述や例文に若干の変更が見られる）

陆丙甫 1988 〈定语的外延性、内涵性和称谓性及其顺序〉《语法研究和探索 四》102-115 頁 北京大学出版社

杨德峰 2009 《对外汉语教学核心语法》 北京大学出版社

袁毓林 2004 〈定语顺序的认知解释及其理论蕴含〉《汉语语法研究的认知视野》7-41 頁 商务印书馆

朱德熙 1982 语法讲义 商务印书馆 第十章 10.7 节